

## Ⅱ 事業報告

# 御所・離宮における小学生・中学生・高校生・大学生への 見学機会の提供

### 1 はじめに

宮内庁京都事務所では、小学生・中学生・高校生・大学生（以下、「見学者」という）が、京都御所・京都仙洞御所・桂離宮・修学院離宮（以下、「御所・離宮」という）への理解や、皇室の文化・歴史への興味・関心を深めることを目的とし、通常の参観とは別に、御所・離宮の団体見学を受入れている（図1）。

平成26年度の開始以降、御所・離宮の近隣の学校を中心に、現在では毎年見学を実施している学校もあるなど、参加した学校からは高い評価をいただいております。当所の事業として定着している。

本稿では、内容を工夫・改善しつつ進めている本事業の概要について、近年実施実績の殆どを占める小学生及び中学生に対する事例を主として紹介する。



図1 見学の様子（京都御所御池庭）

### 2 事業開始の背景

従前より、御所・離宮では、内外の人々の参観を受入れている。しかし、参観案内の内容はあくまで広く一般に向けたものであり、見学者の学習進度や興味・関心に沿っているものではない。

また、仮に御所・離宮に興味を持つ見学者がいたとしても、学校の授業で御所・離宮について詳しく触れられることはあまりないと考えられることから、自主的にインターネットや書籍等で調べるしかない。そのため、たとえ御所・離宮の近隣に居住している見学者であっても、御所・離宮がどのような施設であるか、詳細についてはよく知らないというのが一般的な状況である。

そこで、施設管理者である当所側から学習機会の提供を行うことが、見学者が御所・離宮への理解や、皇室の文化・歴史への興味・関心を深めることにつながると考えられることから、本事業を開始した。

### 3 事業の内容

本事業は、より深く御所・離宮を理解してもらい、皇室の文化や歴史への興味・関心を促すため、基本的には予習・見学・復習の3つの段階で構成している。しかし、必ず3つの段階を経なければならないわけではなく、学校によっては見学のみを行いたいといった希望もある。見学のみ、見学と予習のみなど、学校側の要望を汲み取って、柔軟に対応している。

#### 3-1 申込

申込は、電話または後述の案内文に記載の専用メールアドレスへの問い合わせにより受け付ける。原則として学校を主体とし、学年単位で受入れているが、大学の場合は、ゼミナールや研究室単位での受入れも行っている。

見学人数に上限はないが、見学の際は当所職員1人に対し見学者最大50人程度を一つの見学グループとし、複数グループに分けて見学を行っている。学年単位で申込の場合は、クラス毎に1人、当所職員が付いて見学を行うことが多い。人数、クラス数により見学グループが多くなる場合は、見学日を複数設け、グループ毎に異なる日程で見学を実施することもできる。

#### 3-2 予習

見学の1～2週間前に当所職員が実際に学校へ訪問し、皇室や御所・離宮について画像を用いながら解説を行う(図2)。

事前に解説を行うことで、実際に現地を見た際に、対象についてより深い理解が得られるようになることや、見学者の各自が、見学時に見たいポイントや質問したい内容等を前もってまとめておくことが期待できる。



図2 予習の様子

#### 3-3 見学

当所職員の案内で御所・離宮の建物や庭園の見学を行う(図3、4)。見学コースは、基本的に通常の参観コースと同様だが、歴史・建物・庭園・障壁画に関わる解説のほか、参加する学校の求める学習目的や習熟度に合わせて重点を選び、解説を行う。

見学は、後述のアンケート調査や質疑応答などの時間も含め、約1時間30分を目安としているが、学校により見学者が各自で写真を撮りながら見学したいなどの要望がある場合には、時間を多めに設けるなど、要望に添って所要時間の調整をしている。



図3 見学の様子（京都御所参観者休所）



図4 見学の様子（京都御所紫宸殿）

### 3-4 復習

見学後は、各学校主体で、ポスター発表、レポート作成、小グループ内での発表等、さまざまな方法で見学の復習を兼ねた発展学習が行われる（図5）。要望があれば、当所職員も授業に参加し、簡単な講評等を行う。見学によって得た知識を自身でまとめることは、学んだことの定着に効果があると思われる。

当所職員が復習に参加できた場合はもちろん、後日学校から復習の様子についての情報を提供してもらうことによっても、見学者が見学を通して何を感じたのか、何が印象に残っているのかなどを知ることができ、当所にとっても本事業の改善の指標となるほか、若い世代を対象とした事業の今後の企画立案に役立つ。



図5 復習の様子

## 4 実施実績

### 4-1 各年度の推移

本事業開始以降の参加校数及び見学者数の推移は、図6のとおりである。

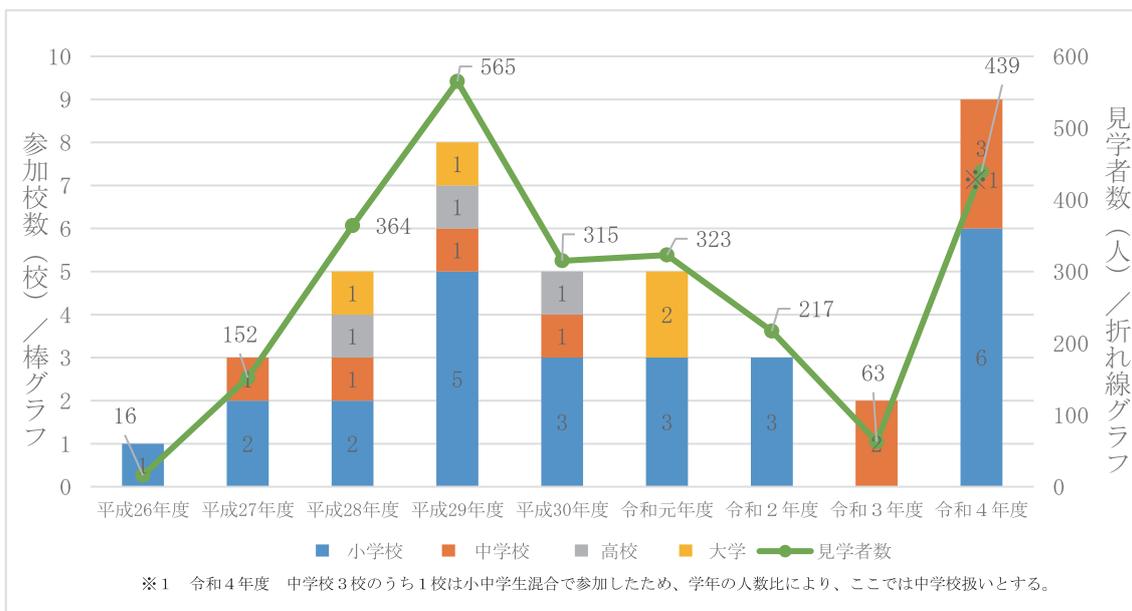


図6 参加校数及び見学者数の推移

見学者数は延べ2,454人で、小学生が1,601人、中学生が317人、高校生が385人、大学生が151人となり、小学生の参加が多い。次いで高校生の参加が多いものの、令和元年度以降に限れば、高校からの参加は無く、近年は小中学生の参加が主となっている。

本事業は開始から順調に浸透が進み、平成29年度には、500人を超える参加となった。その後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等もあって、やや低調であったが、後述の広報活動により、令和4年度には参加校数が過去最高となった。

#### 4-2 ジュニア京都文化観光大使

本事業では、学校単位での受入れのほか、京都ならではの文化・伝統産業・観光などに関する様々な体験を通して感じた魅力を発信する「ジュニア京都文化観光大使」の見学を受入れている。

ジュニア京都文化観光大使は、京都市内在住の小学5年生から公募により毎年任命され、京都の魅力を伝えるために様々な活動を行っている。

御所・離宮においても、平成27年度から、その年のジュニア京都文化観光大使とその保護者の活動の一環として見学するのを受入れてきた。

その様子は、京都市が発行する広報紙「あつまれ！京（みやこ）わくわくのトビラ」内の「ジュニア京都文化観光大使のWAKU WAKU体験レポート」で紹介され、京都市内のすべての保育園（所）・幼稚園・小中学校・高等学校・総合支援学校、児童館、図書館、各区・支所等に16万5千部配布されており、京都市内のこどもたちに向けて御所・離宮について発信する上で大きく役立っている。当該記事はインターネット上にも掲載される。

## 5 広報に関する取り組み

平成26年度の事業開始から令和2年度までは、御所・離宮の近隣学校に電話や訪問を行うことで本事業の案内を行っていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、参加校の減少が見られたため、令和3年度は案内文を作成し、直近の主な参加実績に鑑み、京都御所近辺の小学校を中心に13校に配布した。

令和4年度には、京都市教育委員会の協力を得て、案内文（図7）を京都市内の全市立小中学校へ配布するとともに、同市教育委員会電子掲示板へも掲載してもらい、本事業の周知を図った。



図7 令和4年度に配布・掲載を行った案内文

## 6 アンケート結果と課題への対応

本事業では、事業の効果及び今後の課題を把握するため、平成29年度から、参加した見学者、教員、ジュニア京都文化観光大使及びその保護者を対象に、アンケートを実施している。アンケートの回答は、主に各設問に対する複数の選択肢の中から、最も当てはまるものを一つ選択する方式とし、一部自由記述式の感想欄を設けた。

アンケート開始初年度である平成29年度の結果により様々な課題を把握することができたことから、平成30年度以降は課題への対応に努めてきた。以下、アンケートの結果と課題への対応を紹介する。

## 6-1 平成29年度のアンケート結果について

平成29年度のアンケート結果では、以下の結果が得られた（小数点以下四捨五入）。

問「見学の所要時間はいかがでしたか」

回答「長い」22%

「ちょうどいい」60%

「短い」8%

「未回答」10%

問「解説・資料はいかがでしたか」

回答「よくわかった」42%

「わかった」46%

「あまりわからなかった」及び「未回答」12%

問「皇室施設・皇室文化への理解は深まりましたか」

回答「とても深まった」21%

「深まった」61%

「あまり深まらなかった」及び「未回答」18%

問「見学に参加して、いかがでしたか」

回答「よかった」74%

「どちらでもない」17%

「よくなかった」及び「未回答」9%

問「この見学にまた参加してみたいと思いますか」

回答「はい」71%

「いいえ」及び「未回答」29%

「皇室施設・皇室文化への理解は深まりましたか？」という設問に対して、「とても深まった」及び「深まった」という回答の合計が82%を超えるなど、全体を通して肯定的な評価を得ることができた。一方、「この見学にまた参加してみたいと思いますか？」という設問には29%の見学者が否定的な回答であった（未回答を含む）。課題の残る結果となったため、これまでの方法を見直し、次項のとおり改善を行った。

## 6-2 アンケート結果から見えた課題と対処

平成29年度のアンケート結果を踏まえ、当所では以下の5項目で改善を行った。

### 6-2-1 基礎的な内容をより丁寧に解説

見学者に御所・離宮が「どのような施設であるのか」を理解し、皇室の文化や歴史への興味・関心を深めてもらうため、これまでよりも御所・離宮の基礎的な内容をより丁寧に解説した。京都御所であれば、天皇がお住まいになられていたというだけの簡単な解説をするのではなく、今上陛下のご紹介から始め、その高祖父である明治天皇までお住まいになっていた、という形で現代から遡るように解説するなど、イメージがしやすくなるよう努めた。

また、御所・離宮の平面図と学校の敷地を象った図形を重ね合わせて面積の比較を行い、見学者にとって身近である学校の大きさと比べることで、御所・離宮の大きさを理解しやすくなる工夫を行った。

### 6-2-2 学習目的に合わせた解説

「この見学にまた参加してみたいと思いますか?」という設問において、29%の見学者が否定的な回答であったことを踏まえ、定型的な解説を行うのではなく、より学校の学習目的に沿って解説を行う方が、学校で身に付けていた知識と関連付けながら学ぶことができ、見学を身近に感じやすいのではないかと考えた。

学校から提示された学習目的に対応した解説の一部は、表1のとおりである。

学習目的	見学場所	対応
歴史について	京都御所・京都仙洞御所・桂離宮・修学院離宮	御所・離宮にまつわる歴史の変遷や造営された時代によって異なる建築の特徴等を重点的に解説。 ※見学時期や学年によって学習済みの時代が異なるため、ヒアリングの上、補足や用語の簡略化を行った。
防災について	京都御所	耐震構造、放水銃、訓練の話から、京都御所での火災に繋げて歴史を解説。
生き物について	京都御所	実際に京都御所内で生息する生き物のほか、障壁画で画かれた生き物も紹介。
自然について	京都御所	京都御所に植生する主な樹木の紹介から始まり、桜であれば左近の桜から紫宸殿の解説へ、松であれば御所透かし等の造園技術の解説へと繋げるなどして対応。

表1 見学のテーマと対応

### 6-2-3 参加型・体験型方式の導入

見学者の22%が見学の時間が長いと感じていることから、見学者を退屈させない工夫として、見学中の随所に参加型・体験型の解説を取り入れた。

例えば、京都御所の屋根に使われている伝統技術、桧皮葺の解説を行う際、見学者に竹釘や桧皮を直接手に取ってもらいながら、桧皮の打ち込み方の解説を行った（図8）。

また、御所・離宮の敷地面積や、建物・調度類の特徴等をクイズ形式で解説するなど、考える、楽しむといった要素を多くするよう心掛けた（図9）。



図8 見学者に桧皮を見せながら説明する様子



図9 クイズ出題中の様子

### 6-2-4 パネル・パンフレットの作成

「解説・資料はいかがでしたか?」という設問に対し、「あまりわからなかった」及び「未回答」とした人が12%いたことや、特に小学生へのアンケートの感想欄で「もっとわかりやすくしてほしい」という意見が散見したことから、資料ではアニメーションやイラストを増やし、小学生であっても皇室の文化や歴史をよりわかりやすく学べるよう努めた。また、これまでは通常参観用のパンフレットを配布し、案内する職員が写真等を示しながら解説を行っていたが、アンケート結果を踏まえ、見学者の習熟度に合わせたパンフレット（図10）の作成を行った。さらに、ポイントごとにパネルを設置したり、手持ちのフリップを使いながら解説を行うことで、内部が見えにくい建物でも不満が生じないような工夫を試みた。



図10 パンフレット一部（小学3年生用）

### 6-2-5 少人数での見学

見学人数が50人以上のグループのアンケート結果では、「解説が聞こえにくかった」という意見が寄せられており、スピーカーを使って解説をするなどの工夫を行ったが、見学への集中力が切れ、友達同士で会話をしたり、よそ見をする者が多いことが見受けられた。そのため、解説が届きにくい、パネルが見えづらいといったことが低評価の一因となったとみられる。

実際、令和2年度及び令和3年度において、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、やむを得ずグループを20人以下とし、ソーシャルディスタンスの確保、マスクの着用、手指の消毒、質問等必要最低限の会話のみとするなど、感染予防対策を徹底の上、見学を行ったところ、見学者の集中力が最後まで続いている様子が見受けられた。

このことから、引率者の人数や時間の都合等、学校側の希望と齟齬がない場合は、一グループの見学者を30人程度で行うこととした。

### 6-3 令和4年度（改善策試行後）の結果

前項で確認した改善策を講じた結果、当所が改善点として力を入れた、解説・資料のわかりやすさについて、「よくわかった」「わかった」の回答の合計が、平成29年度の88%と比べて令和4年度は97%と9ポイント上がった。「よくわかった」の数値のみで比較しても、42%から65%と23ポイントも向上している。

また、こども学習の効果を測る根本的な設問、「皇室施設・皇室文化への理解」についても、「とても深まった」「深まった」の合計が、平成29年度の82%に対して、令和4年度の95%と13ポイント向上した。「とても深まった」だけに着目しても、21%から37%と16ポイント向上している。

その他、見学時間が長いと感じる見学者がいることも課題の一つとなっていたが、解説の内容や資料のデザイン、体験型の導入などの工夫や、見学を少人数にして、見え易さ、聞こえ易さを検討した結果、「ちょうどいい」の項目が9ポイント向上した。「長い」の項目には変化が見られなかったが、単純に見学の時間を短くしなくとも、当所の工夫で見学者の体感時間や集中力に違いが見られることがわかった。

この他にも、「見学して良かった」「また参加したい」などの項目が14ポイント以上向上し、見学に対する満足度が高くなった。

設問	回答	平成29年度の 結果 (%)	令和4年度の 結果 (%)	結果の比較 (ポイント)
所要時間はいかがでしたか	長い	22	22	±0
	ちょうどいい	60	69	+9
	短い	8	7	-1
	未回答	10	2	-8
解説・資料はいかがでしたか	よくわかった	42	65	+23
	わかった	46	32	-14
	あまりわからなかった／未回答	12	3	-9
皇室施設・皇室文化への理解は深まりましたか	とても深まった	21	37	+16
	深まった	61	58	-3
	あまり深まらなかった／未回答	18	5	-13
見学に参加して、いかがでしたか	よかった	74	90	+16
	どちらでもない	12	9	-3
	よくなかった／未回答	9	1	-8
この見学にまた参加してみたいと思いますか	はい	71	85	+14
	いいえ／未回答	29	15	-14

表2 平成29年度と令和4年度のアンケート結果の比較

## 7 事業への反響

アンケートの感想欄や見学時の反応から、本事業に対するさまざまな意見・感想を得ることができた。その一部を紹介する。

#### 【見学者からの意見・感想】

- ・京都御所のことを教えてもらって、あまり知らなかったけど、とても大切なところだということが実感できた。多くの人に知ってもらいたい。
- ・松や苔がきれいで、庭の手入れをされている方はすごいと感じた。天皇は実際に京都御所に住んでいたんだとワクワクした。

#### 【教員・ジュニア京都文化観光大使の保護者からの意見・感想】

- ・御所が歴史の学習で出てきても「知らないところ」ではなくなり、身近に感じているように思います。
- ・建物の特徴や、桧皮葺の竹釘等の伝統的な技術のことなどを「特別なことを聞いた」と家族に話したりしているようです。

## 8 今後の課題

事業の内容については、アンケートや現地での様子を参考に、より効果的な形で学習機会の提供を行えるよう、継続して改善を行ってきた。

しかし、広報活動において、令和4年度現在、広報範囲が京都市内に留まっていることから、参加校についても、そのほとんどが京都市内の学校となっている。そのため、今後は全国の学校から参加が得られるよう、更なる広報活動を行っていくことが課題として挙げられる。

そこで、令和5年度からは、全国の小中学校を対象に宮内庁ホームページ上へ案内を掲載し、他の都道府県からの参加が得られるよう広報活動を行い、経過を見て高校・大学にも案内対象の拡大を図ることとしている。

加えて、5で言及した案内文についても、京都市教育委員会のほか、京都府の私立小中学校との連携事務を所管する京都府文化生活部文教課に協力を依頼し、京都府内の全私立小中学校へ周知を行う。

また、京都府外においても同様に、学校と連携の取れる機関に協力を仰ぐなどし、更なる広報の拡大を目指す。

## 9 おわりに

京都御所・京都仙洞御所・桂離宮並びに修学院離宮の歴史は非常に深く、内包する価値は計り知れない。

宮内庁京都事務所では、その価値を伝えるための努力と、御所・離宮を後世に継承するための維持管理を日々行っており、これまでも参観の拡充や桂離宮での観月会の開催等、さまざまな形で広く公開を行ってきた。そのような中で、本事業は次代を担う若年層を対象とした点において、有意義であると考えている。

伝統文化や伝統技術への関心が薄れつつある現代において、柔軟かつ積極的に若い世代に学

習機会を提供することで、引き続き御所・離宮への理解や、平安以来の皇室の文化・歴史、延いては現にご活動されている皇室への興味・関心を深めることができるよう、努めていきたい。

(管理課 小林珠実 山本徹也)